

令和3年度「押原小学校 学校評価 保護者アンケート」結果と考察

- ・本校の保護者238世帯を対象に、12月に実施。
- ・回答方法は、各世帯1回のみ。
- ・全213件の解答があった。89.4%の回答率であった。

(1) そう思う (2) どちらかというとそう思う (3) どちらかというともう思わない (4) そう思わない ※単位は%

評価項目		(1)	(2)	(3)	(4)
生徒指導	① 児童は、生き生きと学校生活を送っている。	69	30	1	0
	② 教職員は、児童を理解し、相談事や悩み事に適切に応じている。	68	29	2	1
	③ 学校は、児童の望ましい生活や人間関係づくりのための指導を行っている。↑	66	32	1	1
学習指導	④ 教職員は、分かりやすい授業に努めている。	69	29	2	0
	⑤ 教職員は、思考力や表現力などを高める授業(ノートに自分の考えや友だちの考えを書いたり、振り返りをしたり、発表したりすること)に努めている。↓	66	33	1	0
	⑥ 学校は、児童の道徳心を高める指導を行っている。	62	36	2	0
	⑦ 学校は、児童の体力向上や健康の保持増進のための指導を行っている。	56	42	1	1
	⑧ 学校は、家庭学習について家庭と連携を図っている。	42	50	7	1
児童の安全確保	⑨ 学校は、児童の安全な登下校のために安全指導を行っている。↓	55	40	4	1
	⑩ 学校は、災害や犯罪発生を想定した対応に取り組んでいる。(避難訓練・引き渡し訓練・防犯訓練等) ↓	62	36	2	0
	⑪ 学校は、コロナ感染症予防の対策を適切に取り組んでいる。(健康チェック表・手指の消毒・マスクの着用・教室の換気・給食前の机の消毒等)	79	20	1	0
学校・保護者の連携	⑫ 学校からの通知やお便り、ホームページなどは、保護者に必要な情報を伝えている。	73	26	1	0
	⑬ 家庭訪問、個別懇談、地区別授業参観などは、教職員と保護者が相互に理解を深めたり課題を共有したりする機会になっている。	76	22	1	0
	⑭ 学校は、保護者の意見や要望に対して適切に対応している。↑	67	31	1	1
	⑮ コミュニティ・スクールとして、学校と地域との連携を深める取組が行われている。	52	43	5	0

【考察】
 今年度より全保護者を対象とした学校評価アンケートを実施した。約89%の回答率であり、9割の保護者からの意見と見なすことができる。15項目にわたる回答のすべてが、「そう思う」「どちらかというともう思わない」が92%以上となった。このことから、学校が2学期末までに行ってきた教育活動において概ね肯定的な支持を得ていると考えることができる。その中で⑧については、肯定的ではあるが、8%が前年度とほぼ同様に若干肯定的ではない意見である。本年度保護者に向けて便りを配付したが、家庭学習の在り方について今後も改善していきたい。
 自由記述としていただいた35の意見を細かく見ると、肯定的支持的な意見が多数である。コロナ感染症対策をとる中での学校教育活動に対する感謝の言葉が綴られたり、緊急の場合は、連絡帳にて様子を知らせてくれたりと、先生方の細やかな気配りや心遣いが学校への評価とつながっていることがわかる。今後とも児童のよりよい成長が学校と家庭で共有でき、主体的に学べる教育を継続し向上させたい。
 一方、危険意識に関する事項について、厳しい意見があった。また、現金での集金方法や保護者が参加する行事については、もう少し早く連絡が欲しいといった要望もあった。家庭学習については、学校・家庭それぞれが工夫を凝らしていく必要を感じる。例えば、意見27については、4月当初に配付された家庭学習のお便りを基に高学年であれば、どのように行おうか等クラスで話し合う時間を作り確認する場面も設けてみる方法もある。また、家庭訪問において家庭学習のお便りを渡しつつ、ポイントを説明してみるのも効果的かもしれない。意見33について、児童の間違い箇所には、丁寧に指導することが望ましい。苦手であるから躓くので、家庭においてもそれを是正する手段として解き方等をプリントの隅に記述し、家庭でも自分自身で取り組める工夫を行いたい。
 現金での集金という意見23については、確かに現金を子どもが持つてくるという心配は拭い去れない。また、全学年が一斉に集めることになるので、大金となる。ただ、これを振り込みということになると昭和町の四校が足並みを揃え、実施方法についても細かい打ち合わせが必要となる。少しずつ、町と協力しながら安心・安全な集金方法に取り組んでいきたい。危険意識としての意見6については、公共施設の使い方を指導するだけでなく、その近隣においても迷惑になる行為等を行わない必要性においても学年及びクラスで継続して指導を行っていく。
 学ぶ環境づくりでは、暑さ、寒さ対策としてビニールカーテンの効果的な活用等を通して改善を図りたい。場所によっては、暑さ、寒さが厳しい教室もあるので、クーラー、床暖房も適宜運用していきたい。